

短期留学者の安全をどう守るか

研究員 渡辺 英雄 (写真)

柴田 勝来

林 佳祐



近年、日本からの海外留学生数には変化が見られる。文部科学省(2024)の発表によると、2004年を境に、日本から国外の高等教育機関への留学生数は減少傾向にある。具体的には、2004年には82,945人であったのに対し、2019年には42,709人まで減少している。一方で、同調査によれば、大学生等の短期留学生数は2009年以降増加傾向にある。2009年の短期留学生数(留学期間3ヵ月未満)は21,683人であったが、2019年には81,671人に達している。短期留学者が増える中、異文化において留学者の安全を守ることは重要なことである。

この通信では、武蔵野大学しあわせ研究所客員研究員である柴田勝来氏らと共同でおこなった研究を具体例として紹介する。日本人は、オーストラリアにおける国外からの観光客の沿岸での溺死者数が4番目に多い。これに関連して、柴田氏らとの共同研究(Shibata et al. 2024)では、日本の大学生を対象に、ビーチ安全に関する認識およびオーストラリアのビーチ安全標識の理解度を調査し、日本人観光客の水難事故リスクを踏まえた文化的要因の影響を明らかにした。日本の大学生152名を対象にオンライン調査を実施し、統計分析およびテーマ

分析を用いてデータを解析した。その結果、対象者の90%がオーストラリアを訪れる場合、ビーチ訪問を計画し、64%が水に入る意向を示したものの、60%が赤と黄色の旗を「危険区域」と誤認していた。本来はこの旗は「遊泳区域」という意味で、間違っ理解することがわかった。また、安全に関する用語の理解度は低く、イラストなどの視覚的表記の方が正しく認識される傾向が見られた。本研究結果から、オーストラリアへの渡航者は、海辺での行動について事前に学ぶ必要があると言える。また他の地域・国や場面においても、安全について異文化コミュニケーションにおける誤解が生まれることが想定される。渡航者の安全のために、事前にどのような誤解が生まれる可能性があるかについて考慮する必要がある。

参考文献

Shibata, M., Peden, A. E., Watanabe, H., & Lawes, J. C. (2024). Do red and yellow flags indicate a danger zone?: Exploring Japanese university students' beach safety behaviour and their perceptions of Australian beach safety signage. *Safety Science*, 178, 106606.

文部科学省. (2024). 「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692_00003.htm (2025年3月2日アクセス)